

第1回 仙台市水道事業基本計画検討委員会 議事録

- 1 日 時 平成30年11月30日(金)14:00～15:30
- 2 場 所 仙台市水道局本庁舎2階 大会議室
- 3 出席委員 太田正委員長、西村修副委員長、佐藤万里子委員、久田真委員、若狭久美子委員
- 4 事務局 水道事業管理者、次長兼総務部長、次長、給水部長、浄水部長、総務部参事兼総務課長、総務部企画財務課長、給水部計画課長、浄水部施設課長
- 5 議 事
 - (1)開会
 - (2)委嘱状交付
 - (3)水道事業管理者挨拶
 - (4)委員自己紹介及び水道局出席者紹介
 - (5)委員長及び副委員長の選出
 - (6)議事
 - ①委員会の運営について
 - ②仙台市水道事業基本計画の策定について
 - (7)その他
 - (8)閉会

(1)開会

(2)委嘱状交付

- ・板橋水道事業管理者より各委員に委嘱状を交付

(3)水道事業管理者挨拶

○板橋水道事業管理者

本日は大変お忙しい中、第1回仙台市水道事業基本計画検討委員会に御出席を頂きましてまことにありがとうございます。また、委員の就任を快くお引き受け頂きましたことに改めて厚く御礼を申し上げます。

仙台市の水道は、大正12年の給水開始以来、市政拡大に伴う急速な人口増加や水需要の増大に対応するため、5次にわたる拡張事業を経て、市民生活や産業活動を支える大変重要なライフラインとしての役割を担っております。

現在、本市の水道事業は、施設の統廃合や職員数の削減などといったこれまでの経営効率化の取り組みにより、現状では健全な経営を維持してございますが、震災後一時的に増加が続きました本市の給水人口も、今後数年程度で、初めて減少に転じる見込みでございます。昭和30年代以降、集中的に整備してきた管路の更新時期が順次増大しながら到来するとともに、本市の主要浄水場の一つである国見浄水場がその更新時期を迎えるなど、次の10年間の事業運営におきましては、様々な課題が見込まれております。今後更なる収支改善策を講じなければ、平成40年代前半には資金不足が生じるという懸念もございます。

このように、水道事業を取り巻く環境はこれまでとは大変大きく変わってきており、平成32年度からの新たな基本計画では、本市水道事業の将来を見据えた上で、今後10年間に取り組むべき方向性を示すとともに、人口増による事業拡張を前提とした過去延長型ではなく、人口減少社会に対応した新しい考えで策定をする必要がございます。

計画の策定に当たりましては、更なるコスト縮減や財源確保に努め、水道の基盤強化を図ることにより、一層厳しさを増す経営環境の中におきまして、将来にわたって本市水道事業を持続していくための方策につきまして、水道局職員一丸となって検討をしてまいりたいと考えております。

この検討委員会では、経営、水質環境、土木、社会資本整備、防災、消費生活、経済界といった様々な分野の有識者の皆様に御参画を頂いております。水道事業の抱える経営課題は大変

多岐にわたっておりますが、それぞれの専門的御立場からの視点はもとより、幅広い視野で仙台市の水道事業を御覧頂き、忌憚のない御意見を頂戴できればと考えております。どうぞよろしく願いをいたします。

(4)委員自己紹介及び水道局出席者紹介(資料1)

- ・各委員自己紹介
- ・欠席の委員について事務局より御紹介
- ・水道局出席者紹介

(5)委員長及び副委員長の選出(資料2)

- ・仙台市水道事業基本計画検討委員会設置要綱第5条第2項に基づき、委員長には太田正委員、副委員長には西村修委員が選出された。
- ・太田委員長、西村副委員長より御挨拶。

○太田正委員長

ただいま委員長を仰せつかりました太田でございます。

私は今のビジョンの策定に関わった者として、10年があつという間に過ぎたなという感じがしますが、その間に東日本大震災という大変な苦難を乗り越えて、今日の再び市民に水を供給する体制を整えられたこの仙台市水道局の皆さんとそれから市民の皆さんに大変敬意を表したいと思います。

そういう意味では、強靱という言葉が新水道ビジョンの中で強調されておりますけれども、市民生活に不可欠な代表的なインフラである水道が引き続き市民に水を供給し続けていることは、大変重要なことだと思いますが、一方で、やはり東北全体をめぐるまして、市民の方々の生活再建と地域の復興といったものが完全な形で元気を取り戻し、その中で水道が重要な役割を果たしていくことによってこそ、初めてこの強靱といったことの意味が具体的な形で示されてくるのだと思います。

そういう点では、ぜひ今後10年、震災を乗り越えて以降、改めて持続可能な形で孫や後世にこの水道事業を引き続き伝えていける、そうしたしっかりとした水道事業をぜひこのビジョンの中で具体化をして、市民の皆さんとともにこの仙台市の水道をそういう形で将来に向けて大きく前進できるものとしてまとめ上げていきたいと思っておりますので、ぜひとも御協力賜りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○西村修副委員長

委員長から副委員長に御指名頂きました西村でございます。

冒頭に板橋水道事業管理者様からも話がありましたとおり、仙台市といえども人口減少を迎える時代がもうすぐ来ているという中で、水道に限らず社会基盤施設全般、これから非常に厳しい経営状況を想定しなければいけないというところでございます。

水道に関しましては、日本の中でも普及が最も早く進み、そして経営的にも非常に健全な状況を保ってきた中で、社会基盤施設の中でもとりわけ市民生活に非常に密接な施設でございます。これをしっかりと健全に持続可能な状況で次の時代に、次の世代にバトンタッチするのは、日本の、また仙台の発展のために極めて重要だと思っておりますので、副委員長としては、委員長をサポートしながら、委員の皆様方の本当に忌憚のない御意見をたくさんお寄せ頂くように努力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(6)議事

○司会(藤田経営企画係長)

それでは、次第の6番、議事に移りたいと思います。

太田委員長、これ以降の議事の進行をよろしく願います。

○太田正委員長

それでは、早速本日の次第に基づく議事に入らせて頂きたいと思います。

議事①委員会の運営について(資料3)

○太田正委員長

本日の議事につきましては、2点を予定しております。

まず委員会の運営について、資料3が用意されております。事務局の方から御説明を頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

○吉田企画財務課長

・事務局から資料3に基づき説明。

○太田正委員長

ただいまの事務局の御説明につきまして、御意見や御質問があればどうぞお出し下さい。

○一同同意

○太田正委員長

それでは、確認させて頂きました。

議事②仙台市水道事業基本計画の策定について(資料4)

○太田正委員長

2番目の議題は、仙台市水道事業基本計画の策定についてということで、資料4が用意されておりますので、事務局の方から御説明を頂きたいと思います。

○吉田企画財務課長

・事務局から資料4に基づき説明。

○太田正委員長

ありがとうございました。この後の参考資料は各自ごらん頂くということで良いですね。

○吉田企画財務課長

参考資料につきましては、本日は時間の都合もございましたので説明はいたしませんけれども、今後の議論にも参考になりそうなことをまとめさせて頂いております。仙台市のこれまでの沿革だとか、あるいは国の動向といったものを書かせて頂いております。ぜひ後程、御高覧頂ければ幸いです。

○太田正委員長

ありがとうございました。今ざっと事務局の方から全般にわたりまして御説明頂きました。どこからでも構いません。何かお気づきの点、あるいは御意見、御質問があればお出し頂きたいと思います。

○佐藤万里子委員

お客様アンケートは、もう既にとり終わったのですか。

○吉田企画財務課長

はい、とり終わっております。現在、結果を集計・分析しているところでございます。

○佐藤万里子委員

どのような内容のアンケートだったのですか。

○吉田企画財務課長

お客様の水道事業に対する満足度や、水道の水質に対する評価、あるいは私どもの行っている様々な取り組みをどの程度お知り頂いているかといったこともお聞きしており、それらを踏まえまして、今後お客様とのコミュニケーションを強化するためにはどのように進めていけば

よいかということの参考になるようなアンケートでございます。

○太田正委員長

よろしいですか。

○佐藤万里子委員

はい。

○太田正委員長

他にございますでしょうか。

○久田真委員

まず最初に、類似7都市との比較が出ていますけれども、特に6ページの職員数というのがありますが、これは、住民1,000人当たりの職員数ですとか、あるいはこの409人の職員でどれぐらいの面積を管理なさっているのかとか、少しサービス水準のような形で情報を集計することも可能ではないかと思えますので、そういった観点でもおまとめなさったらもっとよくわかるのではないかなと今思いましたので、参考にして頂ければと思いました。

○太田正委員長

ありがとうございます。貴重な御意見を頂きました。

○久田真委員

あと、9ページに、今後更なる更新ペースアップが必要というフレーズがあるんですけども、ここはかなり重要なところで、将来ビジョンを見据えて、今のままの布設の方法でいくのか、それとも将来、次世代に引き継ぐインフラとして置きかえてから次世代に引き継ぐのかということで、ここはしっかり深掘りなさった方がよろしいのではないかなというふうに思ったところがございます。

あと、最後もう一つなんですけれども、今後の長期ビジョンをお示しになる際に、事業性の性質を持った上水、下水、ガスといったもので、そのセクションの中で事業性を回すようなプランでお進めになれるのか、それとももう少し事業性の薄い道路とか橋梁とか、そういった仙台市さんとして自治体として永続していかなければいけないわけですので、そういうグランドビジョンに基づいて、他のセクションも込みで考えていくというような視点もあるような気がするので、水道局さんを初め、その他の局さんとのやりとりなんていう、分野横断のところが必要になってくるかもしれませんけれども、そういったこともこの際ですから、本当に将来の行く末、仙台市の行く末という観点で基本計画をおまとめになられたら良いと思いました。

○太田正委員長

ありがとうございます。いずれも大変貴重な御提案とか御意見だったと思います。

それで、特に、今、久田委員がおっしゃっていた9ページのところで、これは管路なんですけれども、この御趣旨は、いわゆるそのままリプレースというか更新するだけじゃなくて、再構築という考えがあるんじゃないかという、そういう御趣旨でよろしいですか。

○久田真委員

もう少し具体的に申し上げますと、我が国のインフラ整備というのは、戦後の焼け野原から、どうしてもつけ焼き刃的に整備されてきた。だから、水道にしる下水道にしる、それを更新、補修、修繕するのにわざわざ道路を掘り返しているというのを繰り返して行っているんじゃないかと。ですから、恐らく水道局で道路の手直しなんていう予算が計上されているかと思うのです。電柱もそうですが、要するに、インフラのあるべき姿というのは、ちゃんとそれこそ共同溝のようなものが走っていて、その都度道路を掘り返さずともいいようなインフラの整備というのは、継ぎ足しでなければ、理想形というのは一応あるわけですから、例えばそういうところにごぎつけるためのグランドビジョンのようなものをおつくりになられると、恐らくコスト削減の余地なんていうのも出てくるのではないかと私の中にはちょっとイメージとしてあります。

○太田正委員長

わかりました。それが先程おっしゃっていた他の行政分野との連携というところにつながっていくわけですね。

○久田真委員

そういうことです。

○太田正委員長

了解しました。先程事務局の方からも、バックキャストのあるべき姿から現在を考えていくという、そういう視線に立った御提案だと思うのですが、事務局の方から何かお答えございますか。

○板橋水道事業管理者

都市の再構築という非常に大きな観点からの御提案かなと思います。

実は仙台市としての総合計画というのがございまして、これの改定時期にもちょうど重なっております。実は水道事業の10年の計画をお願いしておりますけれども、別途市長部局の方で、まさしく30年先の仙台のありようというのを考えた上で、次の10年の仙台のまちづくりについてのいわゆる最上位の計画をこれからつくるという段階になっております。

私もこの会社に三十数年おりまして、以前そういう総合計画の策定にも関わったのですが、その観点で若干お話をさせて頂きますと、今御説明頂いたように、これまではどんどん拡張する、そういう需要に後追いで供給を拡大していくという時代環境がずっと続いてまいりました。その際には、例えば面的な整備をする際にも、道路をどういうふうに整備する、これは結局、居住系の配置の問題に関わります。居住系の配置に必ず必要になってくるのがいわゆるライフラインでありまして、静脈分野としての下水道もありますし、上水道もありますし、当然、電気、ガス、諸々あるわけです。これらが全部まちづくりを計画的に進められれば比較的コンパクトにできるわけですがけれども、どちらかというと、民間の自由な発想で、特に仙台の場合は都市が郊外部に外延的に拡大してきたという歴史的な経過がありまして、いわゆる昔の古い仙台市の外側にいわゆる大規模団地の開発というのが昭和40年代に続きまして、ニュータウンがどんどん拡大していった時代があります。実はそれが全部老朽化して今大変なことになっているわけですがけれども、そのスプロール化の問題、あるいは中心部の都心の周辺での市街地の更新の問題、いろいろ出てきております。飛び地のように整備された土地の扱いというのも実は大きなまちづくり上の課題にもなっています。

これに対して、実は20年ほど前に、今日、人口減少を将来見据えた上で軌道修正を図るべきだという議論をしました。そのときに出てきた結論というのは、今は全国的にいろんなところで言われておりますけれども、いわゆるコンパクトシティという考え方です。外延的な拡大というのを抑制して、仙台市で地下鉄東西線・南北線というのを整備しましたけれども、これの周辺、それからJRその他の鉄道の沿線に都市の機能を集約していきましょと、これによって資源制約の中でも市民サービスの低下を極力抑えられるような、そういうまちづくりをしましょというふうに転換をしたのが今から大体20年ぐらい前の話です。

ただ、都市づくりというのは、どちらかというと、巨大タンカーのようなものでございまして、進むのものすごい力が要るんです。一旦動き出しますと、これは非常に直進性があって継続していくんですけども、逆に状況変化に応じて軌道を変えようというときに、舵を切ってもすぐには変わらないんですね。相当時間をかけないと、少しずつ少しずつしか変わらないという、そういう都市の特性がありまして、そういう意味でも、本日御提案をさせて頂いております長期ビジョン、これが非常に大事だろうというふうに思っております。

いわゆる拡張の時代から、逆に人口減少時代になりますと、計画が立たないというところから、逆に計画的に集約が図られる必要があるというふうになりますので、非常に典型的な事例でいうと、今お話があった共同溝のように、計画的に整備をすると、これも相当な事業量が

かかりますけれども、これの整備が比較的合意が得られやすくなっていくのかなというふうには思います。

ただ、先程お話がありましたインフラの中にも、いわゆる利用料金制、使用者が限定をされて、その負担によって整備をすることが適当という分野、いわゆる公営企業法の適用を受ける分野というのと、不特定多数の方々に受益が及ぶもので、負担を税によってこれは賄うべきという、いわゆる道路のようなものと両方がありますので、これをどう整合させるかというのは昔から非常に難しい課題だというふうには言われております。当然ながら国の助成制度も違います。負担金の負担の割合、制度というのも違います。

ですから、大きな課題認識としては共通ですけれども、具体論がなかなか出てこないというのがここ数十年の都市づくりの大きな課題ではないかなと、そんなような認識でおります。

○太田正委員長

ありがとうございます。

○久田真委員

今までは経済成長のためならばしようがないなということで、良いものも潰れてきてしまったことがあると思うんですよね。仙台の魅力とか、仙台らしさとか、景観もそうだと思うんですけれども、そういったものもちゃんと取り戻して、それこそ観光客の皆さんから、仙台へ来て本当に良かったなと思えるようなまちに、やっぱりそういうところにビジョンを据えて、それを達成するために次世代に本当に引き継ぐ形は何だろうかといったところに論点を持ってもらおうと、いろいろ議論も明るく楽しくできるのではないかと思ったところがありますので、ぜひ参考にして頂ければと思います。

○太田正委員長

ありがとうございます。

先程の事務局の説明にもありましたように、いわゆる過去の延長線上でビジョンを考えるのではなくて、30年、50年という超長期の到達点がどうあるべきかというところから今を見直してみるという、そういう視点を持つということであれば、久田先生のおっしゃるようなそういう視点は不可欠だと思いますので、この検討委員会でもそういう視点を忘れることなく議論を詰めていくということで進めさせて頂ければと思いますし、事務局としてもできるだけそういう視点に沿った形で資料を含めて御提供頂ければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

他いかがでしょうか。

○若狭久美子委員

今までお話しされたのとちょっと似ていると思いますけれども、10ページの水道事業を取り巻く環境のところで、いつも気になっていたところが国見浄水場なのですが、道路がいつも汚れているような状態が見受けられます。それというのはどうしてかなということを感じておりましたので、ちょっとお話されるかもしれませんけれども、御説明して頂ければなどということの一つと、あともう一つは、東日本大震災のときのことです。

私、集合住宅に住んでおまして、水道、電気、ガスが止まりました。水道に関しては、たまたま、下の方に水を溜めておく、プールのようなものがありまして、ポンプで上の方に流すようになっていたんですよね。それで2日間はそこにたまっている水でまかなえて、まもなく電気がきたので普通に水道水を使えるようになり、あまり不自由なく過ごせました。

ここで言いたいのは、今後の災害のことを考えると、そういう溜め池のようなところがあれば1日や2日がしのげるけど、一軒家とかそういう住宅のところは無理だと思いますので、今後そういう溜め池のようなところが近くにあったらいいなということをしごく感じました。

○太田正委員長

ありがとうございます。これも大変貴重な御提案、御意見だと思いますが、何か関連してお答え頂けますか。

○渡部施設課長

では、浄水部の施設課長より2点お話しさせて頂きたいと思います。

まず、国見浄水場付近の道路がいつも汚れているということに対しましては、本当に申し訳なく思っております。

一つの原因として、こればかりではないんでしょうけれども、浄水場というのは、川の水から飲める水をつくる、その一方では、水の中の泥というのを分離していく、固形物を分離するということがあります。以前、国見浄水場は市街地から外れた山の上にあったんですけれども、今は周りが住宅地になりまして、その泥といったところは愛子の方にあります中原浄水場の方に日々運搬している状況でございます。毎日数万トンの水をつくると、数百キロの泥、数トンになりますかね、泥が生まれるということで、その搬送のために今のところはトラックで運送しているといった状況でございます。

国見浄水場につきましては、先程説明の中でも大分老朽化が進んでいてということがありましたけれども、そちらの方もこの検討委員会の話が進む中では、皆様の方からも御意見の方を頂きながらまとめられていくものと考えております。

2点目の、水を各家庭で溜めておくところみたいなものがあればいいのにねという御提案につきましても、私どももそう思う反面、やっぱり水は極力フレッシュな形でお客様にお届けするといった観点や、それから水圧というものもエネルギーとして十分に活用して頂く。受水槽で溜めて高架水槽に上げる方式ですと、そこで電気がないと水は高いところに運べないと。これを直結するという事で、高いところにある4階、5階でも蛇口をひねれば水が出るという便利なところもありますので、そのどちらをとるかというバランスになろうかと思えます。これも都市の整備成熟度によって考え方が変わってくるものでございまして、これはどちらかという、水圧が行き届いたところでは、大規模な住宅では溜めて頂くと、それから個人の住宅や小規模の建物では直結の方を進めているといった状況でございます。

なお、国見地区にお住まいで、そこをよくお通りということですと、近くに今、荒巻配水所というところが八幡の方に下りていくところにあるんですけれども、こちら、仙台市が創設のときにつくられた九十数年を経過する配水池がありまして、更新工事をしております。これが間もなく完成するんですけれども、そうしましたら、そこに大容量の水が常時溜められるという形になりまして、各家庭というわけにはまいりませんけれども、そちらにアクセスすれば、もしものとき、無いにこしたことはないんですけれども、そういった配水池の方に溜めておく、それから学校や公園の地下などに溜めておくということも整備しているところでございます。

○太田正委員長

ありがとうございました。よろしゅうございますか。

○若狭久美子委員

どうもありがとうございました。

○太田正委員長

今の若狭委員の御質問ですが、実は最近ニュースで話題になりました周防大島での事故に関連します。貨物船が周防大橋に激突して、その下を通っていた水道管を破断しまして、結果として1ヶ月以上全島が断水になるという大変大きな問題を引き起こしました。かつては六十数カ所の、溜め池ではないんですが、地下水を活用して自己水源を持っていたんですけれども、その後、柳井市から用水供給を受けて全部統合したために、それが裏目に出たということがありました。御指摘のように、万が一のときにどういうふうにバックアップしていくのか、あるいはそうした水源の確保をどうしたらいいのかということにつながる御質問ではないかと思えます。ですので、今いろいろ事務局からも配水池等の再整備といったことの御回答もありましたけれども、今後のリスク分散をどう考えるかというところの大変重要な御指摘だったと思

ます。ありがとうございました。

○西村修副委員長

私はひとつ仙台市さんにぜひ考えて頂くことをお願いしたいところが広域連携でございまして、14ページに新たな事業手法の確立ということで、官民連携、広域連携、新しい技術の活用、お客様とのコミュニケーションの強化、いずれも非常に大事な方向性だというふうに思います。

この中で広域連携に関しては、要は今回、仙台市の水道事業の基本計画をつくっていくという意味合いでは、仙台市に閉じているというふうに考えることもできますが、もちろん今、仙台市の基本計画をつくるに当たっても、将来非常に厳しい状況があるということを踏まえてつくっていかなければいけないと。これは仙台市の周辺の都市においてはさらに厳しい状況というのが当然見込まれるわけでございますし、あるいは広く日本全国各地そういう状況が直前に迫っているというか、もう直面していると言ってもいいかと思えます。

これまでもいわゆる連携ということに関しましては、例えば災害のときに日本全国ネットワークを事前につくられていて、かなり強固な連携をされていたというようなことも承知しておりますし、周辺の市町村とのコミュニケーションもとれているというふうには思うんですが、やはり仙台市だけが水道が持続されても、周辺が難しい状況になるということでは、なかなか全体として宮城県の、あるいは東北として難しい状況もあろうかなと思います。そういう意味で、連携に関して仙台市の位置付けというのは非常に大事だと思っておりますので、ぜひその視点での様々な検討というの、可能なところからもう始められているというのは承知しておりますが、大事な視点として基本計画に位置付けて頂ければと思います。

○太田正委員長

ありがとうございました。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

今日は第1回目ということなので、まだまだいろいろ御疑問のところとか、あるいは言い足りないところがあるかと思いますが、今後の御審議の中で振り返りながら、そういったところも含めて順次内容を詰めていきたいと思っております。

もしなければ、一応今日予定をしております第1回仙台市水道事業基本計画検討委員会における仙台市水道事業基本計画の策定についてはここまでとさせていただきますが、よろしゅうございますか。

それでは、基本計画の策定についてはここまでとさせていただきます。ありがとうございました。

以上で予定の議題は終了いたしますが、議事の1について事務局から御説明がございましたが、今回の議事録について御署名頂く委員につきましては、佐藤万里子委員にお願いすることになりますので、よろしくお願ひいたします。

(7)その他

- ・議事事項なし。

(8)閉会

○司会(藤田経営企画係長)

次回の検討委員会は来年の2月頃の開催を予定しております。日程が決まりましたら委員の皆様へ御連絡させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、これにて第1回仙台市水道事業基本計画検討委員会を終了いたします。

委員の皆様、ありがとうございました。

以上